

未来に向かって 一人ひとりが輝く北っ子！

～考え動き 人とつながり 未来に向かう子～

図書室を整備しました

7月25日と29日、学校運営協議会や保護者の方々、中央図書館の職員の方にボランティアに来ていただき、図書室を整備しました。

図書室整備の目的の一つは、読まなくなった古い本を整理して、子ども達が本を手に取りやすい空間を作ることです。

ボランティアの方々にお世話になり、まず、10年以上経過した本を棚から出してみました。小説などの読み物は、時間がたっても影響はありませんので廃棄の対象とせず、社会分野や自然科学分野の本を中心にしました。時間が経過すると情報が古くなり誤った表記となってしまう可能性があるからです。出してみて改めてびっくり。棚から本がほぼなくなっていました。しかし、手伝いに来てくれていた本好きの図書委員（6年）や卒業生（中1）が、「古くなっていてもこの本はみんなが好きでよく読んでいるから捨てないで」と言ってくれたり、先生達が「このシリーズは子ども達が好きでよく読んでいます」「この本は授業でよく使います」と教えてくれたりで、棚に戻した本もたくさんありました。人気があるからこそ傷んでいる本もありました。

あれやこれやと協議した結果、7000冊の蔵書のうち、1100冊余りを廃棄することにしました。

空いた棚には、今まで棚に入りきらなかった絵本を入れたり、表紙が良く見えるよう平置きをしたりしました。また、いらなくなった本棚や使用しない机を撤去し、スペースを広げたりしました。

図書室整備のもう一つの目的は、図書室をほっとできる居心地のよい空間にすることです。子ども達がちょっと教室に入りにくいなあという時に、保健室だけではなく図書室でも過ごせたらと考えています。今回、「教室に入れない時、ここで子どもといっしょによく折り紙を折ったんですよ」と手伝いに来てくださった卒業生の保護者もいらっしゃいました。

「図書室はなんか落ち着く、好きな場所や」と手伝いに来てくれた6年生の子も言っていました。

PTA 会長さんが家にあったソファを持ってきてくださり、空いたスペースに置くことができました。子ども達が、ここで、ソファに腰掛け本を読んだり、談笑したり、床に座って折り紙を折ったりできたらと考えています。



7月25日 整備開始。10年以上経過した本を棚から出してみました。



「これは授業で使うね」と選定作業中。



8月7日 本が見やすくなりました



ソファに座って本を読んだり、談笑したりしている子ども達の姿が目につくようです。

お世話になったボランティアの方々、本当にありがとうございました。